

＝ 第14号 ＝

Rits 応化会ニュース

立命館大学

編集：立命館大学応化会事務局

編集責任者：香山 彰 朗

〒525-77 滋賀県草津市野路町1916

立命館大学応用化学系事務局

T E L . 0775-61-2658

OBとの絆

応用化学系学系長

中村尚武

立命館大学応化会会員の皆様にはまずまず、道徳行事とお慕申し上げます。さて、今年も皆様に応化会ニュースをお届けする事となりました。一九九六年度応用化学系学系長といたしまして、会員の皆様に、言挨拶を甲し上げます。

御承知のように、理工学部では一九九四年四月のびわこさつキャンパス(BKC)への学部移転にあわせて生物工学科を新設致しました。その生物工学科の第一期生は今年3回生となりました。したがって、この秋から学料として初めての就職斡旋を前提とした取り組みを開始しなければなりません。昨今の経済状況や化学科の最近の就職事情を考えてみますと、今後多くの活動、運動をしなければなりません。そうした機会にはぜひ卒業生の皆様のご援助とご協力を賜りたいと考えていますので、なにとぞよろしくお願ひいたします。

大学は今年度より8年間を見通した第5次長期計画を進める事になりました。大学が長期計画の下にこれまで拡充発展してきた事は十分御承知の事と思ひますが、現在理工学部がBKCにあります、これを衣笠から移転したのは第4次長期計画の一環として取り組んだ成果の一つであります。今次長期計画の柱はいくつかありますが、やは

り代表的な計画は立命館アジア太平洋大学(仮称)の設置と経済・経営2学部のBKCへの移転でありましょう。前者は未分県別府市に一九九九年度に創設しようとするものであります。2学部で三〇〇名の学生を擁する大学となる予定です。また、その内50%の学生を外国人留学生とする計画です。

後者は一九九七年度末までに衣笠からの移転を完了し、一九九八年四月から開講する予定となっております。これにより、全学の約半数の学生がBKCで学び、残りの半数の学生が衣笠で学ぶこととなります。このような長期計画の意図するところは、21世紀の早い時期に立命館大学がベストユニバーシティとして高い質的内容を持った教員を輩出し、それぞれに分野で優れたことにあります。応用化学系においても、ベストユニバーシティを目標と、国際社会の様々な問題と困難の高層に向け教育と研究の積極的な役割を果たしていこうと頑張っています。

さて、以上のような状況の中で、私がか

最近、一つ感じたことをお話しします。先日朝日新聞の文化欄に「科学をよむ」と題した記事が掲載されてました。お読みになった方々もあろうかと思ひますが、要約してその一端を紹介させていただきます。その記事により、まずと、一八五九年にダーウィンは自分の学説を記述した「種の起源」という書物を出版しました。この書物はその後何度かの改訂を経て、最終的には約一六〇〇部が発行されたそうです。

大事な点は、これだけ多数の、一般的な読者がこの「種の起源」を読んだという点にあります。と言うのも、その約50年後の一九〇五年、アインシュタインは相対性理論をはじめとして画期的な論文を5編発表しました。そのうちの4編が掲載されたのは学術雑誌「アナーレン・デア・フュジック」であり、発行部数は約一六〇〇〇部にと比べて遙かに少ない。その上読者は全て専門の物理学者でした。しかもその時期、はたして何人の物理学者が彼の相対性理論の論文に目を止めて読んだことでしょうか。すなわち、この50年

間に科学者は自分の仕事を訴える対象を、一般読者から専門仲間へと変えたのです。この傾向は近年までさらに強められてきたように見えます。

しかし、最近では少しこの傾向が変わりつつある兆候も出てきているようです。たとえば、巨大な加速器を巨額の税金で建設し、その成果を限られた少数の専門仲間ものだけにしりしりして良いのでしょうか。やはり専門家は社会から提供された資金によって研究し、その結果得られた成果は専門仲間以外の一般の社会の人々にも理解して貰えるよう説明する義務があるのではないか。この記事を読んだところでは、応用化学系の専門教員も、自身で得た研究成果は今までよりよりわかりやすい言葉で公表していくべきではないかと云うことです。そうすれば、たとえはOBの方々の理解も一層得られやすくなると思われまふし、そのことが公的、私的を問わずOBの方々と大学の絆を大層強める事にもなると思えるからであります。

すでに、ここ数年、応用化学系でも幾つもの委託研究や学外機関との共同研究が開始され、産学が協力した研究活動を展開しつつあります。こういう様子について、以前の化学科とは、また、これまでの立命館大学とは様変わりしたと感じる方もおられるかも知れませんが、皆様方のご意見をお聞かせいただければと思ひます。卒業生の皆様のごからの益々のご発展をお祈りいたします。



外留報告

NMSUと

ラスクルーズの

思い出

白石 晴 樹



写真1: Wang研究室にて

Las Cruces (スペイン語: 十字架)

と言ってもご存知の方は少ないかも知れませんが、アメリカ南西部・ニューメキシコ州にある田舎町の名です。私は、昨年8月から本年3月まで学外研修の機会を与えられ、この町にある「ニューメキシコ州立大学 (NMSU) (Joseph W. White) 研究室で勉強させて頂きました。先生は、バイオセンサーの分野では世界的に有名な方で、研究室には20名程度の研究員(写真1)が常時、精力的に仕事をしており、当初は彼らのバイタリティーに圧倒される思いがしました。でも、私がそこで働く初めての日本人ということで、先生はじめ仲間にとても親切にして頂き、1カ月程で雰囲気に馴染むことができました。

“Sequence Selective DNA Sensor”なるテーマを先生から与えられ、8カ月間毎日ポテンシオスタットと格闘していましたが、仕事の内容については別の機会にでも紹介するとして、ここでは、西部劇を思い出させるような不思議な魅力をもったLas Crucesの町をご紹介しますことにします。

ニューメキシコ州は、東西をテキサスとアリゾナに挟まれた砂漠で、“The Land of Little Rain”といふ、Mary Austinの小説で紹介されていますが、殆ど雨が降りません(私の滞在した8カ月間で1度も傘を必要としたことは、ありませんでした)。Puebloと呼ばれるインディアン(Native American)の集落(写真2: Taos Pueblo)が合衆国で最も多く残っ

が多く見られます。

Las Cruces は、ニューメキシコの最南端にある都市で、市内を流れるリオグランデ川に沿って30km程南下すると、もうそこはメキシコです。ですから、多くのメキシコ人が古くから住み着いていて、インディアンとスペインの文化が混ざり合った独特の雰囲気を感じられます。市内の一角に

Old Mesilla Plaza (写真3: ビリー・ザ・キッドが縛り首の刑を宣告された場所と呼ばれている処があり、一八〇〇年代後半のアドルフ・ヒトラーの街並み(マカロニ・ウェスタンに出てくる

メキシコ風の街を想像してください)が残されており、休日にブラザのベンチに座っていたのが今でも思い出されます。また、Old Mesillaの周辺

は、綿とチリの畑が広がっており、8-10月の期間は地平線の彼方まで真っ赤なチリと真っ白な綿の束で埋め尽くされます。収穫期間の1カ月程は毎週土、日に、フェスティバルが開催され、町の人達以外にもテキサスやコロラドからも多くの人々がやって来て、一日中マリヤッチを聞きながらお祭り騒ぎをして収穫をお祝いするのが習慣です。

Las Crucesに住んでいる人々は、

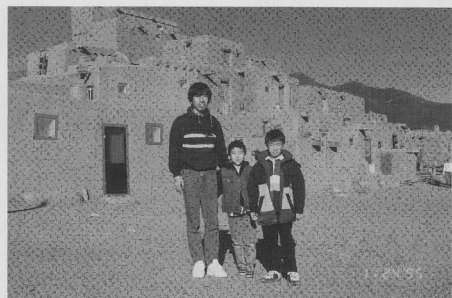


写真2: Taosにて(背景はインディアンの集合住宅)

ラテン系の血が流れているせい이기도もあるけれど、人懐っこくて、何処でも気軽に話しかけてくれるのですが、スペイン語を話す人が多くて、うまく英語を話せない私との会話には、とても時間を要します。けれども、彼らはそんなと気にもしないで街のことで自分たちの身の上話をしてくれます。私も負けず日本の話をしようとするのですが、殆ど日本のことを知りません。というのは、この街には日本人が極めて少ないのです。Las Crucesと周辺の農村を含めて人口が14万人、その中に日本人が約30人程いるようですが日本人に会うことは殆どありません。テレビのニュース等では、日本に関連

したトラブルが報道されていますが、ここではそのような心配は一切ないようです。

NMSUには、約1万6千人の学生・院生在籍する総合大学で、日本人留学生も僅かですが勉強しているそうです。キャンパスの広さは想像を絶するもので、キャンパス内は2本のフリーウェイと鉄道 (Las Cruces) には、停車する駅がありません。が通っており、学内を循環するロードランナーと呼ばれる市営バス (無料) が建物と市内のバス停留所を結んでいます。それとは別に、NMSUのバスが学内の諸施設の間を移動するために運行されていますが、それが遊園地のバスのようなオープンカーで、ホデーはパイプだけ、勿論ドアなどはありませんから、何時でも何処でも乗り降りが自由でできるのです (歩行者からは、誰が乗っているか直に解るのでも少し勇気を出して乗らなければならない)。そんなに広いキャンパスなので、八月一九日の新学期にも立命館大学と同じ学生数がいると感じることはありません。でも、新学期と試験の時だけキャンパスに学生が増えるのは、立命館と全く変わりはありませんでした。

学生たちは、主としてテキサスから来ているようで寮の近くの駐車場には、New Mexico のナンバーを付けた車のように記憶しています。ラテン系文化の影響からか、学生たちは陽気でとても親切、私がNMSUに来て初めて、学内の食堂で昼食をとろうとしたのですがシステムが解らず困っていた

と、女子学生が早口で話し掛けてきたのですが、私には何を言っているのかさっぱり理解できなくてキョトンとした顔をしていました。そして、今度は、身振りを交えてゆっくりと説明しながら、私の食事を準備してくれました (ちなみに、昼食は\$3.50で食べ放題です)。キャンパス内のベンチや芝生で昼食を摂る学生も多く、ここでは時間がとてもゆっくり流れているような気がします。私もベンチに座ってタバコをふかしている (建物の中には、全て禁煙なので、ここがよくあります) が、時々、「タバコを下さい」と女性から (アメリカでは、女性の喫煙者

の方が多いようです) 声をかけられました。それだけならよいのですが、必ずおしやべりをしてくるので、一方的に郷土の自慢話として立ち去って行きます。ある日、コロラドから来たオバアチャンとタバコをふかしていたときのことです。私は彼女が、芝生先生だと思つて話していたのですが、彼女は突然、バッグから赤ん坊の写真を取り出し孫の自慢話を始めました。変だなと思つて彼女に尋ねてみると、実は、この夏から入学した新入生だそうなので、それ以降、カバンを持った年配の方 (結構、キャンパス内で見受けられる) を見るたびに、「もしもこれが



写真3: Old Mesillaにて

の人も」と考えるようになってきました。習慣や考え方の違いが原因で、勘違いや失敗をすることが他にも沢山ありますが、人々が寛大で、周りに日本人がいないので萎縮したりせずにすみ、今となつてはともかく思っている以上に感じられます。辺鄙な田舎街で経験した思い出話を取留めもなく書いてしまいましたが、NMSUや Las Cruces で接した人々を通じて見たアメリカは、私と私の家族に大きなカルチャーショックを与えてくれました

た。今後、暑い夏がやって来るたびに、灼熱の砂漠と Las Cruces を思い出すことでしょう。

最後にお断りをしますが、アメリカの限られた地方での経験をご紹介しましたが、これが現在のアメリカかとは思えません。文章中のアメリカは、ニューメキシコに読み替えていただいたほうが適切でしょう。チェコの電気分析の大家である Dr. Palecek が私に言ったことですが、「此処は自然に恵まれ、

技術セミナー

後発酵茶 — 日本・中国・東南アジア

との関連

鈴鹿医療科学技術大学

宮川 金二郎



車の前にいるのが筆者 (現地にて)

一般に日本で茶と云えば緑茶 (抹茶・玉露・煎茶・番茶) を指しますが、紅茶をはじめウロン茶・プアル茶などもかなり飲まれております。このプアル茶などは微生物発酵茶であることを知らない方も多いことと思います。紅茶は発酵茶に分類されておりますが本来の発酵茶ではありません。生の茶葉内に存在する酸化酵素によりカテキン類が酸化された茶であり、私どもの分類では前発酵茶に属します。後発酵茶とは茶葉を緑茶と同じように一度蒸して、茶葉内の酵素類を活性化させた後に微生物によって発酵させた茶を云います。プアル茶などはカビによ

温醸で、人々はとてもフレンドリーだし、素晴らしいところだ。しかし、平均的なアメリカではない。その言葉の意味が、煽る頃になってやっと理解できたような気がします。State of Entrepreneurship。これがニューメキシコ州のニックネームですが、それが示す通りの素晴らしい夢を私に家族に与えてくれた人々と Las Cruces を忘れることはないでしょう。(一九九六年八月)

る後発酵茶なのです。このカビ発酵の茶は日本では富山県朝日町に現存し、黒茶と云われ地元の人々によって振り茶(煮出して茶甕で泡立てて飲みます)として愛飲されております。

さて、本日お話し上げる後発酵茶とはバクテリアによる嫌氣的な発酵茶についてのものです。蒸した茶葉を漬物と同じく嫌氣的条件下で桶に漬け込んだ茶であり漬物茶ですが(左側の写真)、日本では食べるお茶ではなく乾燥させた飲むお茶なのです。徳島県の阿波番茶、高知県の碁石茶、愛媛県の黒茶(くさらし茶)で、四国の山の中に現存しております。文献上、東南アジアおよび中国雲南省に同じような後発酵茶が存在しておりますが全て食べるお茶であり、四国の後発酵茶との



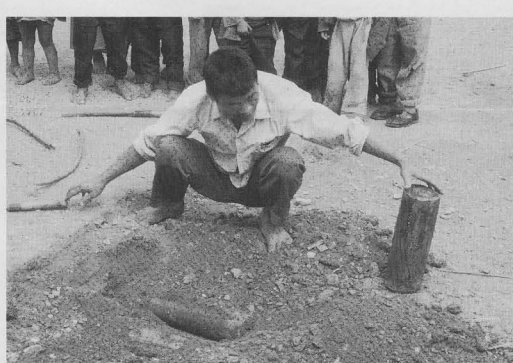
関連が否定されてきました。しかし私どもは東南アジア・中国雲南省のこれら食べるお茶が四国の後発酵茶のルーツではなからうかとの推定のもとに食品学的な立場から調査を始め、中国雲南省西双版纳(シーサンパンナ)の少数民族である布朗(プラン)族の作る竹筒酸茶(竹筒内で蒸した茶葉を嫌氣的に発酵させた酸っぱい茶)が四国の後発酵茶の原点であると疑われました。

はかなりおいしいもので、ご飯のおかずです。またタイ北部で作られるミヤンという漬物茶も四国の阿波番茶などとその製法は基本的には全く同じですが、このミヤンは食べるお茶ではありませんが、ムンナムシヤと食べるとは、たばこを吸いながらタバコチャと噛んで最後には飲み込んでしまう。お客が来たときとか、集会などの「もてなし」用であり、貴重な嗜好品として吸われています。チェンマイ大学のミヤン研究者らは「タイのミヤンはミヤンマールから」と言います。ラオス北部にも後発酵茶があり、タイと同じくミヤンといひ、ミヤンマール北部・タイ北部の嫌氣的発酵茶と共通します。

東南アジアの後発酵茶
ミヤンマールの北部シヤン地方にはラベソという後発酵茶がありますが、茶葉を蒸して竹筒に詰め込み、数カ月嫌氣的に発酵させた後に取りだし、水でさらして苦味を除去し、ピーナッツ・ゴマ・ニンニクなどを加え、植物油であえてムンナムシヤと食べます。これ

中国雲南省西双版纳の竹筒酸茶のルーツは西班牙納と推定されている地域です。野生の数千年にも及ぶ茶樹があらここで発見されております。この地域の千〜二千mの高地に布朗族という少数民族が住んでおりますが、この民族の作る竹筒酸茶は、茶葉を蒸して、竹筒に詰め込み、練った赤土で蓋をして嫌氣的にした後に土中に埋め、一カ月以後に取り出して食べます(下の写真)。お客のもてなし、他村へのおみやげに持参するなどやはり貴重な嗜好品です。少数民族は顔を見ただけでは何族なのか全く分かりませんが民族衣装はそ

れぞれ伝統的であり特徴をもっています。私どもも布朗族の民族衣装を着た女性の写真をミヤンマールのラベソを作る人々に見せると「全く同じ」と答えます。今でこそ国境があり行き来が不自由ですが、かつては国境はあっても無きが如し、布朗族の酸茶がミヤンマールへ、ラオスへ。またミヤンマールからタイへと伝へ広がったことは疑いはありません。これらの後発酵茶が何時、どのような方法で日本へ来たのか、今のところまだ分かりませんが、四国の山



中に現存している後発酵茶は遠い昔に中国雲南省西双版纳の布朗族たちによって作られる酸茶の製法が回り回って四国まで旅を続け、食べるお茶ではなく、飲むお茶として四国の山中で作られ、飲まれ続いています。シルクロードの終点は正倉院であり、嫌氣的後発酵茶の終点は四国である。冒険とロマンに富んだ道であつたに違いありません。



タイ国の工業化 と環境ODA

兵庫県立公害研究所 参事

奥野 年 秀



一、環境ODAの第1号案件

約30年間の公務員生活で海外研修を除く外国滞在は、10年前にドイツ・ミュンヘンの生態化学研究所に赴任して以来である。一九九二年一〇月にタイ人と共同で仕事をすることが巡ってきた。同年七月、環境庁から兵庫県庁への緊急要請であった。

外務省の外郭団体（財）国際協力事業団（JICA）では、海外に長期で派遣する専門家には1カ月間の派遣前研修を義務付け、任国の言葉・国情などを研修する、並行して精密な健康診断も受ける。外務省によるリーダー特別研修は、タイ王室やタイ政府の対応と現地でのJICA事務所や日本大使館との連携などであるが、カンボジアに派遣されたPKO部隊と同様に思わぬ出来事に遭遇する。赴任先は日本の無償資金援助で一九九二年三月に開所したタイ国立環境研修センター（ERTIC）（上段の写真）であり、一九九四年



三月末まで滞在した。任務は、JICAプロジェクトのチームリーダーであり、カウンセラー・パートナーは Mrs. Monchip S.T. 所長であった。バンコク

首都圏のテクノポリスに立地するERTICには、理科系大学院の研究者60名、インターン20名及び事務系10名等が勤務する。日本人は公立研究機関や大学やJICAから長期8名、短期約10名が赴任しているが、専門家の分野は大気、水、廃

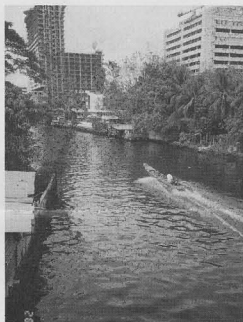
棄物、有害物質及び騒音振動などである。

二、近代化と自然破壊

最近のタイにおける工業化と都市化は急激である。特に、首都バンコクの人口増加と建築ブームの現象は、一九六〇年代初期の東京オリンピックの人口は約6千万人であり、13%が首都圏に集中する。都心部の昼夜を徹しての建築ラッシュと約3百万台の自動車は都市騒音と振動の問題が観察され、一九九二年に改正された国家環境保護法への騒音規制基準が検討されている。大気汚染は車検制度のない自動車の排

気ガスが元凶であるが、交通システムの改善は急を要する。なお、約千社を越す日系企業を含むバンコク首都圏の30ヶ所の工業団地は厳しい排水規制がある。しかし、高層アパートの建設と人口増加は運河の深刻な汚染を生じ蓄

存酸素が0に近く、首都を南北に流れる豊かな水量のチャクラヤ河（メナーム河：中段の写真）の水質も悪化している。生活排水の下水処理率が数%で



あることに起因する。海拔数mのバンコクでは、雨季における道路の冠水も年中行事であり、伝染病が蔓延しないのが不思議である。

タイは、ベトナム戦争による森林破壊を除いて、他のインドシナ諸国に比べて自然破壊が激しく、森林率は国土の20%以下に減少している。ちなみに、日本の森林率は60%以上である。木材はモーターゼーションの発展による道路整備や都市開発による住宅建設などの国内需要と輸出に消費されたが、現在はチーク材を周辺諸国から輸入している。海岸や河川のマングローブ林も炭製造やエビ養殖池の造成による伐採が観察される。

タイのエネルギー源は、タイ湾の海底で一九七〇年代に発見された天然ガス油田からのLPG及び埋蔵量の豊富な褐炭（リグナイト：硫黄分5%）であり、発電は国内需要の殆どを供給できるが、ガソリン生産に必要な石油は90%を諸外国から輸入している。なお、赴任直後に起ったメーモ火力発電所（タイ北部ランパン県のSOWX及び

酸ミストによる住民と植物への被害は、異常気象の低温による逆転層に起因していた。翌年、発電炉11基の敷地に日本の円借款で脱硫装置を設置したが、今後も被害の発生が懸念される。

三、地域開発と環境汚染

マレー半島中部のアンダマン海に面したアーケット島は、国際的に有名な海浜リゾート地であり、高級ホテルが乱立する。島周辺の海域には多種類の珊瑚礁が繁殖しているため、タイ湾に面したカンボジア国境に近い東部海岸のパタヤビーチなども同様に、タイ政府は環境汚染に関する厳しい監視と規制に入った。観光資源はタイ経済を支える大きな柱であり、マレーシア国境に近い湿地帯の開発や日本ODAの東部臨海開発と並行して、自然保護を国



家政策の重点課題としている。一九九二年の地球環境サミット(ブラジル)でのカントリレポートは、(財)財団法人開発研究所(TDRRI)のM. D. D. 教授らの力作であるが、環境保全の技術開発と法整備の必要性を明記している。

日本の環境ODAは一九九三年八月

応用化学系

紹介

化学科はこの4月に、二人の新しいスタッフを迎えました。無機材料工学を専門とされる玉置純助教授と、有機化学がご専門の大庭亨助手です。二人の今後の活躍を期待しております。また、生物工学科では来年の3月で北村清教授が定年を迎えられることとなります。



玉置 純

開所のインドネシア環境管理センター(EMC)や一九九五年五月開所の中環環境保全センター(EPIC)があり、メキシコ、チリにもJICAプロジェクトが開発され、日本は地球レベルの環境保全に大きく貢献すると信じる。環境工学に勉強心のある学生諸氏は、採来の国際協力にも志して欲しい。

平成八年四月から化学科助教として着任しました。大阪出身ですが、大学院修了後、九州大学で8年過ごし、ここから来ました。この度、関西に戻ってきたこととなります。滋賀は、琵琶湖を望み、福岡に負けないうらい自然は豊かですので、たいへん気に入っています。

大阪大学では、合金薄膜触媒の表面状態と触媒作用に関する研究を行っています。九州大学では、この経験を生かして、主として半導体酸化物を用いたガスセンサを研究してきました。これは、酸化物表面で起こる触媒反応が半導体の電気抵抗変化と密接に関連しているため、センサ材料の触媒特性と半導体特性をうまくコントロールして高性能なセンサを設計するというものです。設計は、多くの材料を組み合わせて行いますが、そのときに形成される表面の機能や構造にたいへん興味を持っています。九大での研究室は、電気化学、固体化学、触媒化学などを学際的に幅広く手がけていたため、この間に研究の視野がかなり広がって、私にとって大きなプラスになったように思います。本学では、無機機能材料の設計や機能

界面の評価を行い、ガスセンサなどの機能デバイスの開発に役立てたいと考えています。学生には、研究を通して新しい物づくりのおもしろさ、研究における目の付けどころなどを教えることができたと思います。

最後に、同窓会の皆さまには、これから大変お世話になるかと思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

略歴 一九八三年三月 大阪大学基礎工学部化学工学科卒業 一九八五年三月 同大学院基礎工学研究科博士前期課程修了 一九八八年三月 同博士後期課程修了 一九八八年四月 九州大学大学院総合理工学研究科助手 一九九六年四月 本学に着任 工学博士

大庭 亨



平らな大地しか見慣れない身に、ここでは、それぞれの土地が違った個性をも、関西はとてもし新鮮だ。早くも山と湖とに囲まれたこの地がなかなか気に入っている。色々見て回りたい所が沢山あるのだが、原動機付自転車動力のないのが目下の悩み。

生き物ってなんだろう。最近そんなことをよく考える。「光合成」という光と生き物の絶妙な関係に魅せられ、物理化学の立場から植物のエネルギー変換機構を調べてきた。現代人類の生活を支える光合成のメカニズムは、詳しく調べれば調べるほど不思議を感じていく。ここ立命館大学では有機合成の手法を学んで、新たな立場から生き物の不思議に迫りたいと考えている。どうぞ宜しくお願いします。

一九八八年二月二日生まれ(28歳)

略歴 一九九一年三月 東京理科大学理学部工業化学科卒業 一九九二年四月 東京大学工学系研究科工業化学専攻修士課程入学 一九九三年三月 同課程修了 一九九三年四月 東京大学工学系研究科化学系生命工学専攻博士課程進学 一九九六年三月 同課程修了 博士(工学)取得 一九九六年四月 立命館大学理工学部勤務(命専) 物理化学(趣味) 美術・音楽鑑賞、ドライバ

関東に育って28年。「関西ではボケとツッコミができない」といじられる。そう脅かされてやってくるが、幸い今のところそんな兆候はない。どうやら大目に見てもらっているらしい(?)。



科学技術セミナーの

おしらせ

西島安則

本学客員教授(元京都大学総長)を迎えてセミナーを開催

第十二回「科学技術セミナー」を、十一月三十日に、西島安則・本学客員教授(元京都大学総長)の講演を中心に、大阪で開催します。

来年度は、第一期目の卒業生を送り出す節目の年でもあります。

そこで、生物工学科のさらなる発展を支援すべく、今回の「科学技術セミナー」は、「立命館大学の生物工学科の魅力」を広く會員の皆様を知って頂く内容で企画しました。

生物工学科の先生方のご協力を得て懇親会も企画しました。

詳しくは、別紙の案内をご覧ください。多数の皆様がご参加下さいますようお願い申し上げます。

同窓会ニュース用

原稿の募集について

次号(平成九年十一月発行予定)発行部数約七千部の「會員ページ」「トピックス」欄の原稿を次の要領で募集しますので、協力をお願いします。

①一件 千〜二千程度 ②「會員ページ」欄は、随想、提案のような内容、「トピックス」欄は、製品・技術紹介的な内容を求めます。

③募集締切りは、平成九年七月上旬なお、事前に事務局にご連絡下さい。

応用化学系だより

立命館—UBC 合同学術集会開催



本学の講演でのスミス博士

今年1月22日(26日の5日間)、立命館大学プリティッシュ・コロンビア大学(UBC:カナダ)合同学術集会がBKCキャンパスで開催され、化学・生物工学分野でのシンポジウムが実施されました。UBC側からは一九九三年度にノーベル化学賞を受賞されたマイケル・スミス博士が来校し、「The development of site-directed mutagenesis」のタイトルでセミナーをしていただきました。応用化学系からは5題の口演と12のポスターセッション

ンが繰り広げられ、学生も積極的に参加し、慣れない英語ながらスミス博士と直にディスカッションすることができ、非常に有意義な時を過ごすことができました。

マイケル・スミス(一九三三年、英国パーミンガム生まれ)もともとは有機合成が専門。遺伝子工学における重要な手法である「DNAの特定の位置への点変異の導入」を開発しノーベル化学賞を受賞。現在はプリティッシュ・コロンビア大学、分子生物学教室の教授。

平成八年度の 卒業生は一五二名

一九九五年度の卒業式が去る三月二一日にBKCにて行われ、一五二名が化学科の卒業生として巣立っていきました。その内、進学したものは五六名、就職したものは九二名、その他四名となっております。昨年はいくらまでない厳しい就職戦線でありました。入学時の偏差値は高く、就職時のハードルも高く、これからの厳しい時代を象徴することとてであったようですが、OB・OGの皆様方にはこの新しい応用化学のメンバーを今後とも宜しく願います。

事務局だより

年会費等の 納入について

一、平成八年度の年会費の 納入への協力をお願い

平成八年度年会費(平成九年三月三十一日迄)二千円を納入下さいますようお願い申し上げます。

過年度分の年会費の納入、未納入に係なく、平成八年度分を納入下さい。年会費は、会費納の柱です。全会員の皆様が完納下さいますようお願い申し上げます。

会員の皆様の会費納入状況を同封しています。平成八年度分と共に、過年度分をお願い申し上げます。

二、寄付金募金についてのお 願い

会運営を円滑に行うために、運営資金の一部として、寄付金を募っております。寄付金は、一口二千円として何口でも承っております。ご送金の際は、会費納入振替用紙をご利用下さい。

本会の財政見直しは苦しい状態にあります。このため、皆様の積極的なご協力ををお願い申し上げます。

三、会員名簿の配布について

昨年十二月に発行した「平成七年度版・応化会会員名簿」を、平成四、五、六年度の年会費完納者に無料配布しています。同封の会費未納状況を確認頂き、過年度分の会費納入にご協力下さいますようお願い申し上げます。

なお、平成四、五、六年度を納入される場合は、名簿の送料五百円も送金下さい。

四、事務局への連絡について

会員の住所変更、会費納入、寄付等についてのお問い合わせは、ハガキまたは電話でご連絡下さい。

事務局の電話は、
TEL 〇七七五—六一—二六五八
FAX 〇七七五—六一—二六五九

会員名簿(第四号)の 「訂正編」の作成に ついてのお願い

昨年十二月に発行した「平成七年度版・応化会会員名簿」に、一部誤った記載があることが判明しました。ご迷惑をおかけしました会員、不快感もたれた会員の皆様に、深くお詫び申し上げます。

現在、判明している内容を記載した「訂正編」の作成を進めています。より正確な名簿を期するため、改めて会員の皆様へ、修正・追加についての情報を頂き、それらを合せた「訂正編」を作成したいと考えています。

つきましては、「平成七年度版・応化会会員名簿」をご覧頂き、記載内容で修正すべき事項、追加すべき事項についての情報をお知らせ下さいますようお願い申し上げます。

修正・追加事項は、同封のはがき、または、FAXでお知らせ下さい。皆様のご協力をお願い申し上げます。作成した「訂正編」は、名簿配布者に郵送します。

FAX 〇七七五—六一—二六五九
「応化会事務局宛」

平成7年(1995年)度事業報告

I. 諸事業

- 1) 全会員への通信(1回目) 95年6月5日
(第5回総会案内、年会費の請求等)
- 2) 第5回総会開催 6月18日
- 3) 平成7年3月卒業生名簿作成 8月
- 4) 全会員への通信(2回目) 11月15日
(第11回科学技術セミナーの案内)
- 5) 第11回科学技術セミナー 11月25日
- 6) 同窓会ニュース(No.13)発行 12月2日
- 7) 全会員への通信(3回目) 12月8日
(同窓会ニュース、新卒者名簿、年会費の請求等)
- 8) 在校生への通信 12月8日
(同窓会ニュース、新卒者名簿等)
- 9) 会員名簿(第4号)発行 12月10日

II. 諸会議

- 1) 第5回総会 95年6月18日
- 2) 幹事会
第1回 6月10日
第2回 11月25日
- 3) 常任幹事会 第1回 5月13日
- 3) 諸会議
a) 同窓会ニュース編集委員会 必要に応じて年数回
b) セミナー等運営委員会 必要に応じて年数回

III. 在校生(卒研究生・院生)への援助活動

- 1) 卒業・修了記念パーティ 96年3月21日

平成7年(1995年)度決算報告

一般事業会計

<収入の部>	予算額	執行額
繰越金	822,578-	822,578-
会費	4,000,000-	5,112,000-
寄付金	500,000-	467,500-
企業ガイド掲載料	0-	0-
雑収入	100,000-	1,536-
合計	5,422,578-	6,403,614-

<支出の部>

総会開催費	300,000-	30,000-
セミナー等補助金	200,000-	192,366-
会議費	120,000-	77,206-
印刷費	1,000,000-	618,721-
企業ガイド作成費	0-	0-
郵送費	1,500,000-	1,457,546-
人件費	420,000-	222,500-
事務局費	40,000-	14,474-
雑費	100,000-	37,547-
拠出金	500,000-	500,000-
在学生の活動援助費	100,000-	0-
振込料金手数料	100,000-	88,260-
予備費	1,042,578-	0-
合計	5,422,578-	3,238,620-

次年度繰越金

3,164,994-

特別事業会計

<収入の部>	予算額	執行額
繰越金	2,238,618-	2,238,618-
拠出金	500,000-	500,000-
名簿売上(一般)	250,000-	178,000-
名簿売上(学生)	150,000-	76,000-
名簿荷造送料	550,000-	478,000-
名簿広告掲載料	0-	0-
雑収入	60,000-	18,366-
合計	3,748,618-	3,488,984-

<支出の部>

名簿出版費	2,500,000-	2,027,040-
名簿荷造送料	550,000-	392,870-
人件費	500,000-	377,000-
事務局費	50,000-	38,760-
予備費	148,618-	0-
合計	3,748,618-	2,835,670-

次年度繰越金

653,314-

平成8年(1996年)度事業計画

I. 諸事業

- 1) 平成8年3月卒業生名簿作成(A4-1枚)
96年8月下旬
- 2) 同窓会ニュース(No.14)の発行 9月下旬
- 3) 全会員への通信(1回目) 10月下旬
(同窓会ニュース、第12回科学技術セミナーの案内、
新卒者名簿、年会費の請求等)
- 4) 在校生への通信(1回目) 10月
(同窓会ニュース、新卒者名簿等)
- 5) 第12回科学技術セミナー 11月30日

II. 諸会議

- 1) 幹事会
第1回 96年6月29日
第2回 10月
- 3) 常任幹事会
第1回 96年6月29日
第2回 10月
- 4) 諸会議
a) 同窓会ニュース編集委員会 必要に応じて年数回
b) セミナー等運営委員会 必要に応じて年数回

III. 在校生(卒研究生・院生)への援助活動

- 1) 卒業・修了記念パーティー 97年3月

平成8年(1996年)度予算

一般事業会計

<収入の部>	予算額
繰越金	3,164,994-
会費	4,000,000-
寄付金	500,000-
企業ガイド掲載料	0-
雑収入	100,000-
合計	7,764,994-

<支出の部>

総会開催費	0-
セミナー等補助金	400,000-
会議費	150,000-
印刷費	1,000,000-
企業ガイド作成費	0-
郵送費	1,800,000-
人件費	420,000-
事務局費	40,000-
雑費	100,000-
拠出金	2,500,000-
在学生の活動援助費	100,000-
振込料金手数料	100,000-
予備費	1,154,994-
合計	7,764,994-

特別事業会計

<収入の部>	予算額
繰越金	653,314-
拠出金	2,500,000-
名簿売上(一般)	250,000-
名簿売上(学生)	150,000-
名簿荷造送料	50,000-
名簿広告掲載料	0-
雑収入	60,000-
合計	3,663,314-

<支出の部>

名簿出版費	0-
名簿荷造送料	100,000-
人件費	500,000-
事務局費	50,000-
予備費	3,013,314-
合計	3,663,314-